

亀岡市生涯学習推進審議会 会議要旨

日時：平成 28 年 2 月 9 日（火）午前 10 時～11 時 30 分

場所：亀岡市役所 1 階 市民ホール

1. 開会

（事務局）

現委員にとって、2 回目の審議会となる。

審議に先立ち、委員の交代があったので御報告する。教育委員長として中桐安子様にお世話になっていたが、栗山正則様に新たにお世話になることとなった。また、自治会連合会から松本行雄様にお世話になっていたが、連合会の役員改選に伴い、小寺邦明様にお世話になる。

山本淳子委員から欠席の御連絡があった。吉中康子委員は少し遅れて出席される。

2. 委嘱状交付

勝見副市長から栗山、小寺両委員へ委嘱状交付。

委嘱期間：平成 28 年 2 月 9 日～2 月 23 日

3. 開会あいさつ

（会長）

平成 26 年 2 月 24 日に前回の審議会を開催した。前回から時間が空いてしまい、申し訳なかった。この間も新亀岡市生涯学習推進基本計画は実行に移されており、皆様の御意見を伺うことも出てきた。

平成 31 年度までこの計画は有効であるが、総合計画が平成 27 年度で一旦見直しとなる。この審議会も総合計画に合わせるかたちでの開催となった。

本日は、「亀岡市における学習機会の提供」と「ギャラリーかめおかのあり方」について、現状を踏まえながら、今後に向けての課題などについての忌憚の無い御意見を伺いたい。

（事務局）

亀岡市生涯学習推進審議会条例第 5 条の規定に基づき、以降の進行は上杉会長にお願いしたい。

4. 協議

(会長)

(1) については、事務局からの説明となる。(1)での説明を受けて(2)で、委員の皆さまからの御意見を伺いたい。最初の説明が少し長くなるが、よろしくお願ひしたい。

(1) 亀岡市における学習機会の提供について

(事務局)

資料 1～5 に基づき説明。

(2) 求められる生涯学習活動とガレリアかめおかの役割

- ガレリアかめおかで展開される学びの環境や人材のネットワーク
- ガレリアかめおかの機能と公益財団法人生涯学習かめおか財団

(会長)

事務局から説明いただいたことの質疑もあるが、生涯学習活動とガレリアかめおかの役割についても焦点を当てて、御意見を頂戴できればと思っている。

学習機会の提供ということで、コレージュ・ド・カメオカを始めとしていろいろなものが提供されているが、それでいいのか、それとも、他のものが考えられるのか、年齢層や地域の偏りがいいのかなどについて御意見を聞くところから始めていきたい。

(委員 1)

人口が減少している中でも、ガレリアかめおかの利用者が減っていない。ガレリアかめおかが作られた当初はサークルが多く、教室もぎっしりとあった。ガレリアニュースなどを見ると、最近教室の数が半分ぐらいに減ってきたように思う。なぜなのかと思っていた。市はこの点をどのように考えておられるのか聞きたい。

(事務局)

ガレリアかめおかでの講座数自体はそんなに減っていないと思う。ガレリアニュースについては、定番的なものはだんだん掲載されてなくなっているのかもしれない。その時々トピックス的なものが優先される影響もあるかもしれない。

(会長)

講座の開催数は減っていないが、掲載率が下がってきているかもしれないとのことだ。

(委員 1)

そうになってしまうと、市域の参加者が増えていかないと思う。

(委員 2)

資料から見ても、亀岡市の生涯学習事業は充実していて、素晴らしいと思う。

前回の会議でも申し上げたが、市民大学の参加者は高齢者が多い。高齢者の参加自体は良いことだが、できれば、もう少し若い方にも出席していただけないかと思う。そういったことを前回の審議会でも発言したが、若い人の参加率を上げるための取り組みをされているのかどうかをお聞きしたい。

(事務局)

市民大学は運営委員会制でされており、市民が講師の依頼なども含めて運営されている。開催にあたっては、今の社会情勢に応じた講師を選んでもらっており、若い人に興味のあるテーマも選定してもらっている。

また、市民大学以外の取り組みとして“輝き”フォーラムなどの新しい講座も用意している。こうした新しい取り組みは2,3年で展開を変えている。

ただし、市民大学に実際に若い人が来ているかどうかは把握できていない。

(委員 2)

いろいろ素晴らしい事業は展開されているが、生涯学習事業は市民の身近な、例えば自治会などにおろして、自治会や組長会などで語られるのが望ましい。

(委員 3)

自治会でも事業や催事はたくさんあるが、問題は住民の受け止め方だと思う。受け止め方や効果についてデータがあれば伺いたい。

(委員 4)

私は、市民大学の初代の運営委員長をしていた。受講者も当初はかなり若かった。40、50歳台が中心だった。運営委員会自体もエネルギーが豊富だった。それが、段々高齢化が進んできた。昔は地域に入るかたちの地域市民大学や夜間市民大学、専門市民大学も実施していたが、時代の流れで長続きしなかった。なぜ長続きしなかったのかの総括はできていないが、続いていかなかったのは事実だ。

(事務局)

イベントの開催時にはアンケートを取っている。ただし、アンケートに答えてくれる参加者は学びの意欲が強い方だ。参加されていない方の状況は分からないのが現状だ。

(委員 5)

自治会は多様化している。各自治会でもいろいろとされているが、自治会におろしての

運用は長続きしていない。再考する機会があれば、もう一度自治会連合会に持ち帰って検討してみたい。

地域も多様性が増している。高齢化率の高い地域や篠町のように人口が増えているところもある。内容がうまくマッチングしたら来られるが、集客自体も集まるかどうか分からない。検討する機会があれば、自治会連合会の中でも協議していきたいと思う。

(会長)

市民大学の運営委員会は自主運営で成果を上げてきたが、時代の流れで市民の受け止め方が変わってきているのだろうか。

(委員 4)

難しい問題だと思う。市民の多様化という言葉で片付けると良くないが、かつては婦人会や青年団、消防団などがあった。そこに入れば世代を超えた学びがあった。それも大きな生涯学習の一つだった。それが、婦人会の消滅、消防団の団員不足など、まとまりから見ると欠けてきている流れだと思う。

(会長)

いかに人と人をつないでいくのかということがポイントになるが、御提案や御意見があればお願いしたい。

(委員 6)

京都学園大学で、レクリエーションやスポーツ、健康づくりを専門にしている。競わないう体操にも取り組んでいる。海外でのイベントに参加して目から鱗だったのは、イベントに参加すれば歴史や文化、芸術、音楽など多様な分野の活動に触れることができることだ。開催期間中は公共交通機関のフリーパスももらえる。日本だと野球なら野球、サッカーならサッカーなど特定の分野しか知らない。

先日、車椅子や耳の聞こえない方とのイベントをしていて、学生を参加させたところ、初めての体験だったという感想が多かった。

亀岡市はとても素敵ところで、行政ともコラボできるし、学ぶ機会もある。京都府のへそでもある。学校教育では年代的に横のことしか知らなかったが、セーフコミュニティなどで縦横の連携もできつつある。

ガレリアは良い施設なので、生涯学習の基点にしてもらいたい。利用者の 3 万人は重複している人も多く、新しい人が少ない。参加者が一人につき一人でもいいので、新しい人に声を掛ける。人口も減っていくので、どんどんアピールして、観光客に来てもらい、親切的な亀岡人が対応する。そういうまちにしていけばよい。感動すると動いてもらえる。そういうことをやっていく必要があると思う。広報が大変だが、ホームページやチラシより

口コミが一番だ。

(会長)

若い人が参加できる事業展開、来た人たちが PR するという 2 点のことを言われた。

(委員 6)

1 年間程度の期間でシリーズ化して、ネットワークでやっていくことも大事だと思う。

(委員 7)

市民大学は本当に素晴らしい取り組みだ。あるテーマに興味や関心を持つ市民が学びたいと求める内容の講義が提供されている。亀岡をどう知り、亀岡をどう知らせるかの中で町の誇りを持てる。

講師についての意見も年配の人からのものが多い。上田先生や黒川先生とも相談しながら選んでいただいている。そうすると若い人のニーズに合っていないのかもしれない。ただし、自分たちで考え、選んで、実現していくことをサポートするのが生涯学習かめおか財団として大事だと考えている。スタンスの置き方についての考え方はいろいろあるが、現状では口を挟むことは避けている。

(委員 8)

子どもたちに目を向けると、学校でも家庭でも学んでいるが、学びが成功したかどうかは「好きなことがある」、「学びたいことが子ども自身にある」ということだと思う。参加して、向上したというものがあると続けていきたくなる。「分かった」とか「できるようになった」が次につながる。充実感があるのは、喜んでもらえる、感謝してもらえるということだと思う。生涯学習の一番の力はここだと思う。人との関わりが欠かせない。個人意識的な傾向が今は強い。若い人が参加しにくいというが、子育て世代と関わりがあるが、求めておられると思う。ニーズの掘り起こしができていない。受講者のニーズを調べながらやっていくと違うと思う。ニーズの把握が大事だと思う。

(委員 2)

今の市民が生涯学習に対していかに意識を高めるかということだが、来ている人にアンケートしても分からない。来ない人の意見が大事だ。生涯学習について、町内などでアンケートしてみても良いかもしれない。

資料 2 に利用者などの推移があるが、来館者が右下がりになっている一方で、催事の件数は増えている。

施設でいえば、ギャラリーで石田梅岩の像が置いてあるところがあり、利用させてもらったことがある。良いところだが夜になると暗い。ああいったところを活用して梅岩のこと

を話しても面白いと思う。

カフェ（ラウンジ）は、事業をしているのか。良い雰囲気だと思っていた。高齢者も多いので、ひと時座れるスペースがあれば良いと思う。

（事務局）

ラウンジについては、2年前までは軽飲食の提供があったが今は行っていない。今年の4月から軽い食べものと飲み物の提供を再開する予定にしている。

（委員 9）

商工会議所はガレリアの中に事務所を構えている。来館者は、特に土日に家族連れが多い。毎週何かイベントをやっているのだから、来られている。そうした中で懸念するのは駐車場だ。根本的に絶対数が少ないと思う。一部有料化の検討も考えられる。亀岡市や運動公園の駐車場を利用してもらい、シャトルバスを利用するというのも考えられると思う。

（副会長）

現在、亀岡の文化資料館が老朽化して、新しく作り直す構想がまとまりかけている。文化資料館も講座をしている。生涯学習の実施面でも重要な役割を担っていくと思う。ネットワークの構築という意見があったが、恐れるのは個々でバラバラに実施して、連絡・調整できないことだ。過去に同じ日程で同じような内容の講座が実施されたこともある。調整機能は行政としてきちんとしていかないといけない。現在、生涯学習に関しては市民協働課、文化資料館は教育委員会が主管している。調整できる機構の整備が必要だと思う。

地球環境子ども村も事業を展開しているし、エネルギーを効率的、かつ、計画的に展開する機構作りも必要と思う。

（委員 5）

副会長の御意見については、この審議会場で収めるのではなく、市長にきちんと伝えておいてもらいたい。

（事務局）

先ほど委員 2 から来館者と催事件数について御意見があった。来館者については、平成 24 年度に大浴場を閉めた影響があると思う。催事件数の増加は、そこまで分析ができていない。

（委員 4）

市民大学に長年関わってきたが、やっと意味が分かってきた。生涯学習には即効性は無く、成果が出るまでには長い期間が必要になってくる。特に大事なものは人との関わりで、

運営委員会で関わった方とは今でもお付き合いがある。

(会長)

本日は様々な御意見をいただいた。事業間の調整ができているかどうか、検討をしてもらいたいという意見があった。

地域のつながりということで、地域の人に関われる事業が必要との意見もあった。

ニーズを掴むために、事業に来ていない人も含めたアンケートなどで把握する必要があるということや、亀岡を良く知る機会が必要との御意見もあった。本日の御意見を生涯学習施策の参考としていただきたい。

5. その他

(事務局)

本日いただいた貴重な御意見は、次年度に向けて整理をしていきたい。

委員任期は、2月23日で満了となる。大変お世話になった。次期に向けては、来年度以降に選任等の手続きをしていくこととなる。

6. 閉会

(副会長)

全ての委員から意見をいただいた。感謝したい。計画のテーマにもあるように、「人間の尊重、ふるさとへの愛、創造性豊かなたくましい人づくり」を進めてまいりたい。

(終了)